

# 令和6年度 中学生の「税についての作文」



11月24日、玉名市民会館大ホールで令和6年度中学生の「税についての作文」表彰式が開催されました。

今年度は荒尾玉名地域の中学生3,896人から1,046編の応募があり、和水町からは3人の生徒が表彰されました。

また、「税についての作文」の募集について、三加和中学校へ全国納税貯蓄組合連合会から、作文募集推薦校感謝状が贈られました。

- ・熊本県北広域本部長賞……………井島 兄さん (三加和中学校2年)
- ・和水町長賞……………葉 祐心さん (三加和中学校2年)
- ・和水町教育長賞……………藤村 汐里さん (菊水中学校3年)
- ・全国納税貯蓄組合連合会 作文募集推薦校感謝状…三加和中学校



三加和中学校 二年 井島 兄

熊本県北広域本部長賞

## 『水と税金の関係』

僕が今住んでいる日本は、水道をひねればきれいな水がでる。なるべく節水をこころがけているが、それでも水がなくて困ったことはない。親が水道料金を払っているし、水が飲めるのは当たり前だと思っていた。しかし、当たり前前に水が飲めない国の人もいることを知った。

そこで、世界の水事情について調べた。調べてみたら、アフリカのマリに新しい井戸ができたときの話を見つけた。すぐにきれいな水がでてこないマリでは、小さな子ども達が一往復に1時間かかる道のりを、十往復していたそうだ。とてもびっくりした。井戸ができた後、ポンプで水を出せるようになった。そのときの現地の人の笑顔の写真が印象的だった。病気にもかかりにくくなったそうだ。

いま当たり前のように飲めているのは、当たり前ではないことに気づかされた。また、その幸せは「税金」のおかげだということにも。最近よく「税金が高くなる」というニュースをよく耳にし、税金は悪い印象しかなかったが、僕たちの生活にはなくてはならない物だと分かった。テレビなどで報道するときは、「税金が高くなって生活が苦しくなる」という悪い面ばかりを報道するのではなく、「国の政策に使う」などの使い道を報道するほうが僕は良いと思う。最後に、今回の作文を通して思ったことがある。教科書には、こう書いてある。「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」これからの日本を担っているの、頑張ろうと思いません。僕の夢は、まだ決まっていないが、いつか自分がだれかのために役に立てるよう、今できる勉強・努力をしていきたい。世界には色々な環境で暮らしている人たちがいて、当たり前のように勉強をできていることも「税金」によって支えられていることに感謝し、将来自分自身がしっかりと納税して日本をささえる一員になれるように頑張りたい。



三加和中学校 二年 葉 祐心

和水町長賞

## 『税あつての生活』

僕は、消費税が上がるたび、世の中の不満の声をテレビなどでよく聞いています。実際僕も「何で消費税を上げるんだろ。皆の生活が大変になるのに。」そもそも何に使われているのか。あやしいものだ。」等と思っています。税金がなくなれば一人ひとりの負担がなくなり、生活が豊かになるものだとも思っています。

しかし、学校で学んだり、自分で調べていくと全く違う事が分かりました。もし税金がなかったら、中学校では年間一人当たり約百万六千円かかり、教科書、机、椅子、学校で使う教材等全て個人でお金を負担する事になってしまふのです。町の道路は穴だらけ、いたるところにゴミがあふれる事になりかねません。救急車も一回出動すると約四万五千円がかかると言われています。無料の国は少数派で多くの国は有料だと言っているので驚きです。一回の要請で十万近くの料金が発生する場合もあるようです。そんな国もある中、日本は無料で救急車を呼べるなんてとても恵まれていると思います。

以前、僕の曾祖父が脳梗塞で倒れ、救急車で運ばれ一命をとり止めた事があります。当時は、まだ小さい僕でし

たが救急車のおかげで曾祖父が助かった事は分かりました。この様に救急車は沢山の命を救ってくれますが、利用料が無料であるため、安易に使い過ぎている面も多いにあると思います。以前、救急車が呼ばれたとんでもないケースを思い出しました。「蚊に刺されてかゆい」「日焼けした足がヒリヒリする」「血は止まっているけど紙で指先を切って痛い」「ペットの元気がない」等どれも驚く内容でした。百十番通報だつてすぐです。「免許更新の方法を教えてください」「子どもが言う事を聞かないので叱って」「家の中にゴミブリがある」「警察の対応を必要としないものが増えていると聞きます。」

無料だからと言つ気持ちもあるのかもしれませんが、安易にかける人が増えるといざという時緊急通報電話を受け付でなくなったり、助かる命も助からなくなると思います。無料は、決して当たり前前の事ではありません。国民がきちんと税金を納めているから僕たちは、安心した生活を送れているのです。だからこそ一人一人がきちんとした税金の使い方をすべきだと思えます。僕たちが治安の良い国で楽しく元気に学校に通えているのは、税金のおかげなのです。誰もが関わって生活している税金。決して他人事ではありません。今は、まだ子どもで消費税しか払っていませんが、大人になると沢山の種類の税金を納めなくてはなりません。大変になると思いますが、日々生活の中で税金を支えられている事をいつまでも忘れず、感謝しながら納税できる大人になりたいと思います。



菊水中学校 三年 藤村 汐里

和水町教育長賞

## 『「あたりまえ」を疑う』

私達は日々、あたりまえのように学校へ通っている。この、誰もが「あたりまえ」と捉えていることにも税金との関わりがあることを、私は初めて実感することになった。

租税教室の曰、私ははじめ税のことを重く考えていなかった。知っても税への見方は変わらない、そう思っていたからだ。しかし、話を聞き進めていくと一変。税というものの重要さをしかと受けとめることになる。まず、税金を納めるという事は「納税の義務」として、国民全体の義務とされている。税金と一まとめに言っても、種類はおおよそ五十ほどあるらしく、驚きました。その中でもよく私達や親が払っている税は、「消費税」、「所得税」、「住民税」、「事業税」の四つらしい。また、少しこれらの税について調べてみた結果、所得税と消費税は自身で税額を計算して申告・納税する必要があり、事業税と住民税は市区町村などから送付される通知書に従い納めるという、納税の仕方が複雑になっていることも知れた。税を納めるといふ一つの行為でも、様々な方法で納めることがあるらしい。この知識は大人になってから役に立つらしいいな。話を租税教室の日のことに戻します。

これまでに、さまざまな税の種類のことを知った。しかし、それらの税がどのようなものに使われているかの詳細はよく知らなかった。私は小さいころから「税は本当に必要なのか」と疑問に感じていた。スーパーマーケットやコンビニにて、いつ見ても税込と税抜の価格が示してある。税抜価格のほうが明らかに安いのに、なんで税込価格の表示がしてあるんだろ、そうずっと考えていた。私が中学生になって間もないころ、一度だけ税抜価格を見て、それを買いたいようになったことがある。こつやつとまどわすこともお店の考えで、税はなにか悪いことに使われているのか。？と当時は思いつつあった。ただ、今回の租税教室の中であつたお話により、全てが変わつた。税は、自分たちが今学校へ来られていることにも大きく関わっていたり、警察や消防の人々が出動しているのにも、又は町で工事がされているのにも、このような身近な公共の場に税の力が働いていることを知った。反対に、世の中から税がなくなるとどのような事態になるのかを表したビデオでは、人々が職を求めてさまよう光景、老人や子供も働かなければいけないような状態、道には穴があいていたり、警察などを呼ぶにはお金がかかっていたりなどといった、普段の生活であたりまえだと感じていたものが全て、その「あたりまえの裏返し」になっていて、驚くのと同時に「はじめは感じなかった税の大切さをすべて受けとめることになりました。」

租税教室を終えて、私は税のある意味などを理解し、学ぶことができた。これからは税への見方を変えて、税がある大切さを「あたりまえ」を疑いながら生活していきたい。